

【ねがいはましては】

令和4年11月9日

KYOWA SCHOOL

第380号

「キラキラ」

ある日の授業です。絵本を「よむ」ということを実にゆっくりと、じっくりとやってみようと思いました。

灰谷健次郎さん著の「だれもしらない」という題名の絵本です。内容は、まりこちゃんという小学校6年生の女の子がいます。その子は毎朝学校へ行くのに、自宅から200メートル離れたところにあるバス停まで40分かけて行きます。この時点でどのようなお子さんなのか察しがつくと思います。まりこちゃんは小さいときの病気がもとで、筋肉の力が普通のひとの十分の一ほどであり、しゃべるときでも正確に発音できないので、まりこちゃんを知らない人には「わーわー」とか「うーうー」としか聞こえません。つまり何をやるにしてもひとの十倍の力を出さないとできない子です。

ということが読み進めるにつれわかってきました。そして私は3.5キログラムほどのバーベルを持ってきて子どもたちに持ってもらいました。その十分の一ですから、350グラムになります。コップに水を入れ、クッキングスケールで350グラムちょうどをはかります。まず、コップを持ってもらう。そして次にバーベルを持ってもらう。普通の子が何の気なしに持つコップが、まりこちゃんにはバーベルの重さを感じるのです。

その日の授業はここで終わりました。そして次の授業では、実際に200メートルを40分かけるとは、どのくらいのスピードなのか試してみようということになりました。ここで登場するのが算数です。40分を200メートル、であれば1分は？40分を1分にするには、40でわると1になりますので、平等に200メートルも40でわります。

わりざんは、両方同じ「0」があれば、カットして計算できるひみつを教えながら計算です。 $200 \div 40 = 20 \div 4$ と同じなので5メートル、そして次は1メートルものさしの登場です。中には1メートルがどのくらいの長さなのか未だよくわからない子もいますので、これは学びになりました。背の高さでよく使う1メートルですが、横に倒した1メートルは結構見ていないものです。それを5つ分、部屋の中でつくっていきます。そしていよいよ始まりました。「自分で1分だと思えるスピードでここからあそこまで歩いてみてごらん？」いよいよそれぞれが思い思いのスピードで、まりこちゃんになりきって歩きます。

誰が一番近いとか、誰がピッタリだったとか、そのようなことはどうでも良いと思います。子どもたちがまりこちゃんになりきって歩き、まりこちゃんの病気がどのようなものなのか体感することが大切なことであると思います。

皆思い思いに「そうだったのか」「そんぴょうきだったんだ」と、わかることが大切だと思います。

しかし実際には、まりこちゃんは、停留所へ着くまでにいろいろと寄り道をします。きっさ店のやすこねえさんにあいさつしたり、ネコのクロにクマザサの葉をあげたり、海を見てほっとしたり、ハチのしゃぼん玉ふきを見たり、パン工場のおじさんに声をかけられたり、はるみおばさんがせわをしているマツバボタンのおしべにさわったり、そうするとまわりのおしべもいっせいに同じ方を向くのを楽しんだり……。そしてまりこちゃんは「ふふふ……」とわらいます。

まりこちゃんの200メートル、私は子どもたちに聞きました。「いつも学校へ行くとき、寄り道したりする？」もちろんこたえは「しな一い」……当たり前でしょう。誰もが寄り道が良いことだとは思っていないでしょうし、寄り道するような時間もないはずです。それどころか小走りに通う子はたくさんいます。遅刻しないように……。

そして私が最も訴えたい一行が、この絵本のなかに登場します。

「あんな子、なにがたのしみで生きてるのやろ」

これは、まりこちゃんが200メートルの間に浴びせられた通りすがりの大人の言葉です。健常者です。つまり私たちです。

私はここで行った授業が本物の授業だとところから感激しています。

私は子どもたちが生き生きとキラキラと瞳を輝かせ、真剣に一步ずつ歩く姿こそが「真の学び」だと感じました。そこには比べたり、競争したり、成績だったり、テストだったりなどありません。「そうか、200メートルも歩かなくてもどのくらいのスピードなのかわかるんだ。10倍重たいってこのくらい重いんだ」という肌で感じるからこそが真の学びにつながり、生き方を学ぶことになる。そして計算することがこんなにも役立つことであり、その他の計算もきっと役に立つに違いない、だからこれからあとの計算やそのほかの勉強もじっくり取り組んでみようという気持ちを育てあげることが「教育」の目的だと。

この絵本の著者である灰谷健次郎さんはすでに他界されていますが、有名な児童文学作家です。そしてここに登場したまりこちゃんは実際にいらっしゃったお子さんです。灰谷さんはもともと小学校の先生をされていました。そこでの実体験をもとに多くの作品を書かれています。そして理想の学校や理想の子ども像を書かれていらっしゃいます。

教育って何なのだろう？

私は掲げ続けていきます。教育って「ひとづくり」だと。何が良くて何が悪いことなのか、しっかりと自分で決めることのできる力を育てることだと。そして勇気を持ってそれを実行に移していくことだと。

今、精一杯に生ききっていること、それが君たちにとっての100点だよ。まりちゃん、ありがとう。